

丸協にゅーす 2月号

- 丸協topics
『第4回関西物流展出展決定』
- 今、知っておきたい物流topics
『物価高騰多発。必要な価格転嫁は行えるよう
荷主との関係構築すべき』

第4回関西物流展 出展決定！

2023年4月12日～14日にインテックス大阪にて開催される「第4回関西物流展」に丸協運輸(株)は出展いたします。今回で4回目の出展となりますが、物流業界で大きな問題となっております、

「**24年問題**」への対応というテーマで相談コーナーを設け、お客様のお困りごとにお応えできるスペースを作ります。



2024年問題
改善基準告示の改正内容



第3回関西物流展の様子

今、知っておきたい物流topics

物価高倒産多発。必要な価格転嫁は行えるよう荷主との関係構築すべし

帝国データバンクによれば、2023年1月の物価高倒産が初の50件に達し、運輸業はそのうち最多で10件。物価高の要因としては、燃料代、原材料、資材等の高騰が指摘されています。

一方、中小企業庁における価格交渉に関わる調査から、トラック運送事業は27業種について調査したうち、最も「交渉に応じてもらえていない」業種となっています（価格交渉促進月間（2022年9月）フォローアップ調査の結果について）。

「コスト上昇分の何割を価格転嫁できたか」は20.6%。コスト上昇分の8割を自己負担している状況です。

ご存じのとおり2023年4月から、残業代の割増率の引き上げが法令で決まっており、コスト上昇が確定しています。

2024年4月からはドライバーの残業時間の上限が960時間に規制されますが、この基準が「守れそうにない」という事業者は多くあります。管理不可能として、廃業する事業者が出ることすら予想されています。

もちろん荷主はこんなことは望んでいません。荷主の物流を止めずにすむよう、持続可能な経営を保つことが重要です。そのためには適正な価格転嫁は行うべきことです。問題がありそうならば、荷主ごとに確認してみてください。

順位	業種
1位	石油製品・石炭製品製造
2位	鉱業・採石・砂利採取
3位	卸売
4位	造船
5位	機械製造
6位	食品製造
7位	繊維
8位	紙・紙加工
9位	化学
10位	電機・情報通信機器
11位	建材・住宅設備
12位	金属
13位	小売
14位	製薬
15位	飲食サービス
16位	印刷
17位	自動車・自動車部品
18位	電気・ガス・熱供給・水道
19位	建設
20位	不動産・物品賃貸
21位	情報サービス・ソフトウェア
22位	広告
23位	金融・保険
24位	通信
25位	廃棄物処理
26位	放送コンテンツ
27位	トラック運送
—	その他